初等教育コース（小学校サブコース）　キャリア形成支援の教育臨床学

県内学校における教育実践事例の教材化に向けて

教育臨床・尾川満宏

1　授業の基本情報

本報告書でとりあげる「キャリア形成支援の教育臨床学」は、小学校サブコースの専門教育選択科目（小学校教育拡充科目のうちの教育臨床科目）である。開講時期は 2 回生前期であり、2019 年度は小学校サブコース 2 回生 18 名が履修した。

本授業は、初等中等教育段階を中心としたキャリア教育や、学校内外における若者向けキャリア形成支援事業の現状、今日の若者支援政策などを扱う授業科目である。授業序盤は日本における進路問題や就職問題の歴史や現状を、中盤は現代社会におけるキャリア形成の困難について多面的に概説・考察した。それらを通じて、現代社会の特質をふまえた教育実践の構想力を育成することを目的に、授業終盤ではキャリア形成支援実践プログラムの開発を目標として設定している。

以下では、本授業の振り返りを行うとともにと、今後の授業改善に向けた課題を抽出する。

2　ディプロマポリシー対応調査の結果にもとづく授業の検証：成果と課題

１）授業科目の成果

次ページの図 1 には、授業最終回で行った「ディプロマポリシー対応調査」（以下、DP 対応調査と表記）の結果を示した。当日出席者のうち、11 名から回答を得ることができた。

この授業では、キャリア教育に関する諸概念のみならず、学校教育内外における若者のライフコースに関する歴史的経緯や中高生や若者の意識と生活に関する時系列データの読み取り・分析などを行い、現在のキャリア教育政策や子ども・若者支援政策を批判的に検討した。その一環では、最新の研究成果に触れるため学術論文の講読とレポート作成なども課題として課した。そうした学習を進めるなかで、DP 対応調査の結果によれば「知識・理解」や「思考・判断・表現」において半数以上の回答者が最も肯定的な回答を寄せていることは、授業の意図が受講者に伝わり、一定の成果を挙げていると考えられる。とくに「思考・判断・表現」の向上は授業者が力点を置いている項目であり、レポート課題の工夫などが功を奏したといえる（課題文献として挙げた学術論文が理論的・理念的な考察を中心としたものであるため、受講者には、その論文の続きを執筆するよう課題を課した。そうすることによって、理論と実践の関連性を意識した考察をしてくれたものと考えている）。

「興味・関心・意欲，態度」においても、ほぼ半数の回答者が最も肯定的な回答を寄せており、キャリア形成支援に対する受講者の意識を高めることに成功したといえる

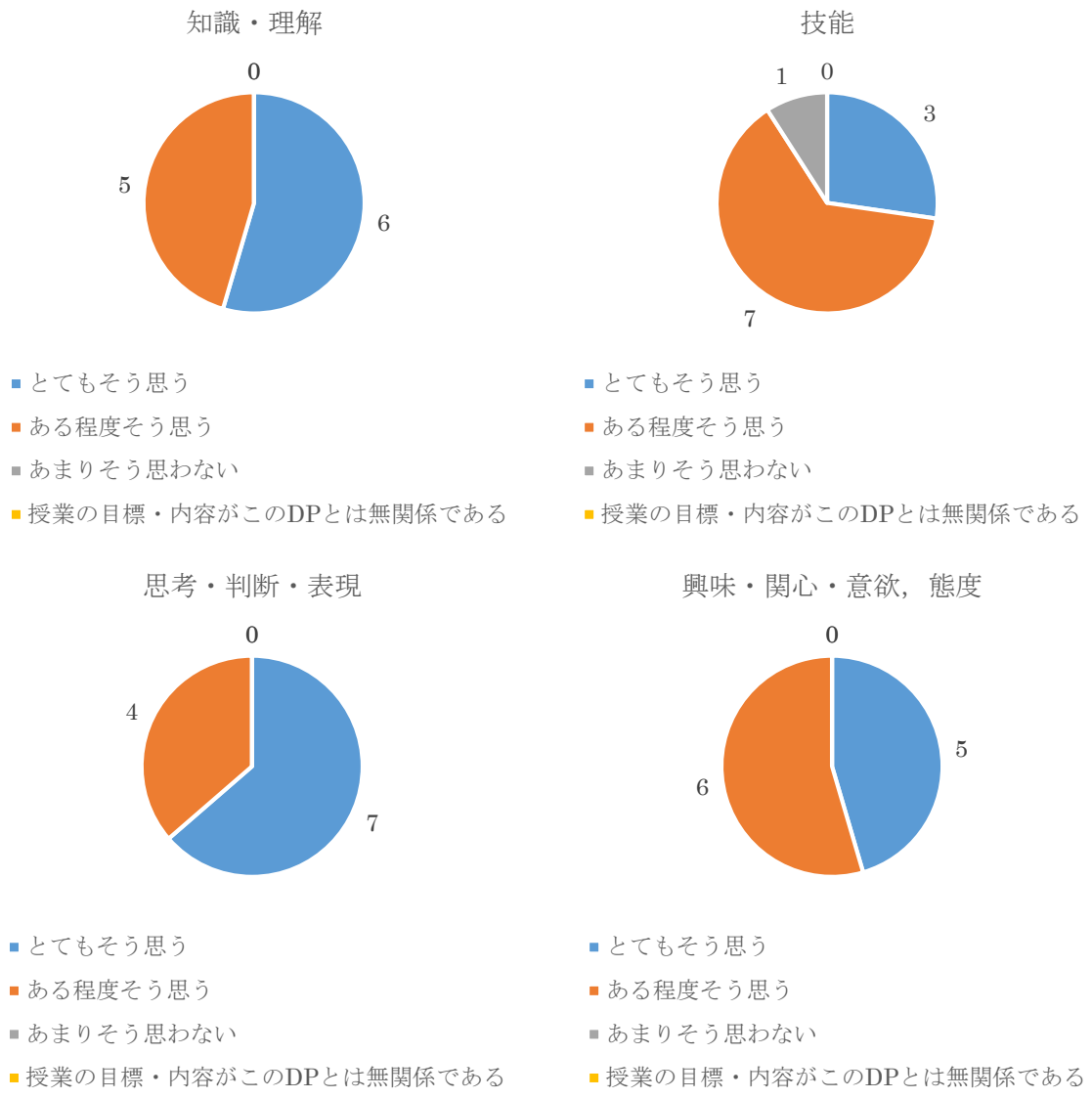

図１　DP 対応調査の結果（回答者数 11 名）

知識・理解：教育と教職に関する確かな知識と，得意とする分野の専門的知識を修得している。
技能：教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。
思考・判断・表現：教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について，専門的な知見をもとに，その対応方策を理論に基づいて総合的に考え，その過程や結果を適切に表現することができる。
興味・関心・意欲，態度：教師としての使命感や責任感を持ち，自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ，自主的に社会に貢献しようとする。

だろう。レポート執筆をもとにディスカッションを取り入れ、各自の立場や主張、論文理解を相互批判のなかで深化させることを意図した。こうした学習により受講者各自が問題意識を高めた結果として「興味・関心・意欲、態度」が高まったと考えられる。

以上から、ディプロマポリシーの大部分において本授業は良好な成果を得たといえるだろう。

２）授業科目の課題

しかしながら、DP 対応調査の「技能」の観点からいえば、授業改善の余地があると考えられる。本授業の後半は受講者らがグループとなって教育プログラム開発を行うが、そうした面へのより積極的な指導・助言が必要かもしれない。

また、この授業科目では、数年前から、教育学部附属小学校におけるキャリア教育の実践研究報告を、地元学校での実践事例として教材化し、活用してきた。そこでは、教育目標の立案と達成のための手法、その評価について詳細な報告がある。しかしながら、講義において「キャリア教育における評価」に関する言及がやや少なかったことが、プログラム開発の難しさにつながった可能性がある。

「指導と評価の一体化」と言われてきたように、どのような指導を行うかと、どのような評価を行うかということをセットで考えることにより、より精緻な実践構想・指導計画を立てることが可能になる。したがって、今後は、愛媛県でも開発が進んでいる「ポートフォリオ教材」の在り方や活用の実態なども含めたキャリア教育の評価について講義を充実させることによって、プログラム開発を通じた「技能」の向上も図りたい。

3　地域社会を核とした教育・研究のつながり

授業担当者は、2018 年度より愛媛県進路指導研究会の顧問として、県内小学校・中学校・高等学校におけるキャリア教育実践について指導助言を行っている。本報告書で扱った 2019 年度前期の授業では導入できなかったものの、2019 年度後期に実施した大学院の必修科目（キャリア教育の理論と実践）では、当該研究会の年次大会で報告された実践事例も吟味しながら、実践プログラム開発の参考資料とした。その結果、総合的な学習の時間と職場体験の関連化に関する実践研究的な視点や、生徒会活動など特別活動への発展などカリキュラム開発の視点を、実践プログラム開発の過程で指導・学習することができた。

今後は、こうした実践事例の資料を前期の学部科目にも教材化して導入することで、特別活動や総合的な学習の時間におけるキャリア教育の推進という観点から、より具体的な実践研究の方法や実践構想の視点を提供していきたいと考えている。このような教材の導入によって、より具体的なカリキュラム運用を構想することが可能になると考えられるため、本報告書で課題として挙げた「技能」面の能力向上も期待できるだろう。来季に向けた授業改善の一助としたい。